



作家・脚本家 市川 森一

◎プロフィール いちかわ しんいち
諫早市出身。1941年生まれ。NHK大河ドラマ「黄金の日日」「山河燃ゆ」「花の乱」。映画「長崎ぶらぶら節」など多くの脚本を手掛けた。たたら、演劇、小説などでも活躍。長崎県全域に材を得た作品が多い。近年の著書に、「夢暦長崎奉行」（長崎文献社刊）、「蝶々さん」（講談社刊）。紫綬褒章受章。

市川／だから、容易に逃げお世話。ということですね。

とても興味深いお話です。このあたりも物語には出てくるのですか。

絢爛たる原城

市川／もちろんです。原城を語る時、普通は、圧政の時代から始めることが多いようです。ですが、私は有馬のキリシタン文化がもっとも華やかな時代、さきほどお話しした、セミナリヨ全盛の時代でもある「天正遣欧少年使節の帰国に行われた大祝典」から始めたいと考えています。

市川／大祝典は本に行われたのですか。
市川／ルイス・フロイスの著書にも書かれていますが。当時の有馬氏の栄華は、絢爛さ、華やかさのどれをとっても日本随一ではなかったのでしょうか。その



市長／今は荒唐無稽でも、絶対に実現したいことがある。

して、その栄華こそが、彼らの原点であり、あるべき有馬の姿だった。その後の凄惨な時代に、彼らが望んだこと。それは、絢爛で平和な原城の姿をもう一度よみがえらせた、その一念ではなかったか、そう思いたいのです。

市長／彼らのかなわなかった夢、それが「幻日」であると。
市川／そう読みといていただけると作者冥利に尽きるのですが（笑）。
アイデアを実現するには、まずは「実現したい」と願うこと

市川／緻密な取材の先に、リアリテイのある虚構はない。

市川／13代目となると戦国時代までさかのぼりますから、四国じゃないでしょう。ひよっとすると、市長は、生粋の「半島人」かもしれせんよ。これまで、「乱後の生き残り」はほとんどいない」と言われていましたが、私の考えはちょっと違います。実は、当時の文献に残っている名字（姓）、例えば林田や鬼塚などの名字が、この地には多く残っています。全滅したのなら、これほどこの地域に林田さんが多い説明がつかない（笑）。そして、この説は決して珍説ではない、と考えています。

珍説と新説の境界線

市長／今日一日、一緒に市川先生と原

城を散策して、その実行力、特に「自ら動く」という姿勢、緻密な取材に目を奪われました。さらに緻密な事実を追求する一方で、小説では大胆な仮説が展開される。まさにうなるしかありません。

市川／今回の小説では、諸説に反して、天草四郎は、ある意外な人の子ども、という説を採用しています。それも、十分な裏付けがなければ、それもただの珍説にすぎません。

市川／しっかりと調査し、裏付けをとる。そのうえで、資料からイメージを膨らませ、さらにその資料から矛盾がないか確認する。この作業の繰り返しの中

ところ、20年以上前、原城を舞台にした小説を企画しましたが、そのとき書かずによかった、と思います。発掘が進み、飛躍的に資料の質が上がっています。「原城発掘」や「原城と島原の乱」といった本が南島原市から刊行されていますが、これらは学会でも超一級の資料ですし、国の宝とも言えるものです。こうした調査の上で、新たな視点での物語作りができることを、とてもうれしく思っています。

島原の乱は、農民一揆であるか、宗教一揆であるか。

市長／国の宝ともいべき原城を持ちながら、南島原に住む私たち自身が、

市長／ところでまだ、一揆軍と幕府軍は和睦をしていないのですよ。私は、ぜひ、400年ぶりの和睦ができないかな、と考えているのです。袴を着て、できるだけ仰々しく（笑）。人からは「荒唐無稽」と笑われるのですが。

市川／それはいい考えですね。私も以前、各地に点在するキリシタンの墓石群を、一カ所に集められないか、という提案をしたことがあります。もともと点在していたものではなく、本来は普通のお墓のように一カ所にあったは

原城や日野江城のことをあまりにも知らないのではないか、と思います。そしてそれは、私たち自身のせいだけではないのではないように思うのです。当時の幕府の「黙殺する」姿勢が、遣伝子のように、現在まで連綿と続いている、という気さえるのです。

市川／私もそういう空気を感じます。昭和20年ごろ、作家の坂口安吾さんが、原城に取材に訪れたところ、愛想よく話す地元の人が、原城のことを聞いたとたん口をつぐんだ、という文章が実際に残っています。逆賊に対する後ろめたさ、確かにそんな風潮が、当時あったのでしょうか。

市長／島原の乱は、農民一揆というところから考えますが、私は、そうは思いません。殉教の地として、聖地として社会的に認知されるべきではないでしょうか。（次頁）



南島原市長 松島 世佳

「幻日」を楽しむために 読んで・観ておこう！

南島原歴史遺産

最新の発掘資料、研究成果をわかりやすく、写真やイラストを用いて紹介。

※世界遺産登録推進室などで配布しています。



原城発掘

キリシタン大名有馬氏の原城発掘調査で出土した数々の遺物が島原の乱の封印を解き放つ。

※各図書館で貸し出しているほか、各書店で販売しています。



原城と島原の乱

世界を見た天正遣欧使節、鎖国へと踏み出す最終局面としての島原・天草の乱、厳しい弾圧のなか信仰を守り抜いたキリシタンの精神文化を解き明かす。

※各図書館で貸し出しているほか、各書店で販売しています。



「有馬のセミナリヨ」関係資料集

北有馬町に日本で初めて創立されたイエズス会の中等教育機関である「有馬のセミナリヨ」を豊富な資料を交えて解説。

※各図書館で貸し出しているほか、北有馬支所で販売しています。



DVD「南島原市から世界遺産を」

島原半島にキリスト教が広まるさまを時代に沿って紹介。

※各図書館で貸し出しています。



まんが「動乱原城史」

制作後20年近く経過した今なお、市内外で読まれています。

※各図書館で貸し出しています。

